

令和 7 年度 摂津市地球温暖化対策地域計画推進協議会 議事要旨

日時：令和 7 年 9 月 3 日（水）10:30～12:00

場所：摂津市役所本館 3 階 301 会議室

■ 出席者

- | | | |
|---------|-------|--|
| (1) 委員 | 尾崎 平 | (関西大学環境都市工学部都市システム工学科教授) |
| | 北川 照子 | (特定非営利活動法人摂津市人材サポート・ビューロー代表理事) |
| | 島内 嘉紀 | (摂津市商工会事務局長) |
| | 有田 昌義 | (大阪ガス(株) エナジーソリューション事業部
環境・地域共創部 地域共創第 1 チーム マネジャー) |
| | 金林 宏哉 | (関西電力(株) 大阪支社大阪北地域統括長) |
| | 沖野 豊美 | (大阪府地球温暖化防止活動推進員) |
| | 山本 祐一 | (大阪府環境農林水産部脱炭素・エネルギー政策課気候変動緩和
・適応策推進補佐) |
| (2) 事務局 | 吉田 量治 | (摂津市生活環境部長) |
| | 菰原 知宏 | (摂津市生活環境部環境政策課長) |
| | 齊藤 善久 | (摂津市生活環境部環境政策課長代理) |
| | 堀邊 太志 | (摂津市生活環境部環境政策課) |
| | 田端 勇史 | (摂津市生活環境部環境政策課) |

(以上、敬称略)

■ 内容

- はじめに
- 会長、副会長の選任
- 審議事項
令和 6 年度振り返りについて
- 報告事項
令和 7 年度の主な取組について
- 計画の中間見直しについて

■ 配付資料

- | | |
|--------|------------------------|
| 【資料 1】 | 令和 6 年度進捗管理表（事前配布済み資料） |
| 【資料 2】 | 令和 7 年度の主な取組 |
| 【資料 3】 | 国の地球温暖化対策計画の概要 |

1. はじめに

- 事務局より配付資料の確認。
- 吉田部長より開催の挨拶。
- 委員自己紹介。

2. 会長、副会長の選任

- 協議会規則に基づき、尾崎委員を会長に、北川委員を副会長に選任。

3. 審議事項

令和6年度振り返りについて

- 事務局より【資料1】に基づき説明。

委 員 : 行政経営戦略が新しいもの変わった場合、地球温暖化対策地域計画はどうなっていくのか。

事 務 局 : 計画期間は今年度までとなっているため、今年度に審議会を立ち上げて中身を決めていく方針と思われる。それに伴い、KPIを見直していく。

委 員 : CO₂排出量は、関西電力の排出係数を使用しているのか。

事 務 局 : 環境省のマニュアルに基づいた係数を使用している。

委 員 : 事業者の排出係数は変動が大きく省エネ等の取組みが正しく把握出来ない可能性がある。LED導入等の省エネ化の取組みを行うことで、エネルギー使用量は着実に減ることから、指標にエネルギー使用量も併記することで、摂津市における環境への取組みのアピールにつながるのではないか。

委 員 : ZEH、ZEBの数値目標はあるか。

事 務 局 : 数値目標は設定していないが、KPI(指標)の市域における「都市の低炭素化の促進に関する法律」による低炭素建築物の認定数(累計)により数値目標を追っている。

委 員 : 施設の担当課はどこか。

事 務 局 : ファシリティマネジメントの観点では資産活用課となる。昨今の建築材料費の高騰等の影響により実現は困難となっているが、新築される公共施設については、太陽光パネルの設置を最低条件として、それに加えてプラスアルファの部分でZEB Readyを推進している。

新築予定の味生コミュニティセンターについても設計段階から検討していたが、予算的に断念した。今後も大規模改修等があれば呼びかけを継続していきたい。

- 委員：公共施設の再編や統合はこれから進んでいく方向性であり、他市では ZEB Ready レベルぐらいのことはやっていて、事務事業編の CO₂ を減らす努力に注力しているため、摂津市でもぜひ進めていただきたい。その中で民間にも広げていくような形を目指してほしい。
- 委員：子供向けのごみ処理場の見学（茨木市）に行ったが、ごみ処理前の仕分けが乱雑で驚いた。ごみ減量の対策としては、施設の見学だけではなく、このごみがどのように処理されていくのかを見せる方がよい。このイベントは 1 回限りで終わってしまったが、継続的に実施してほしい。NPO 法人摂津市人材サポート・ビューローでは、小学校に行ってリサイクル用の牛乳パック回収を行っているが、1 校に 2～3 個しか回収出来ないこともあり、回収量が大幅に減少している。小さなことだが、まずは家庭の中からも子供の環境教育を考えるとこの事が大切であり、行政にはそれに伴う取組を考えてほしい。
- 事務局：ごみ関係は環境業務課となるが、環境フェスティバルにブース出展したり、子供のエコ探検ツアー等を開催したりしている。同じ環境部局内のため、今回の意見を情報共有していきたい。
- 委員：こどもエコノートの参加者が減少しているのはなぜか。
- 事務局：エコノートの提出が少ない学校もあったため減少している。
- 委員：こういった経験は将来への影響も大きい。子供の興味を引くような積極的な働きかけが必要である。
- 委員：他の担当課になるが、シェアサイクルの利用回数が増加しているが、「摂津市は自家用車を利用しなくても移動しやすいまちだと思う」と回答した市民の割合は減少している。その理由はなぜか。
- 事務局：同一人物による継続した調査ではなく、各々でランダム抽出した調査結果であるため、関連性は低いと考えられる。今回の意見については、担当課へ共有し要因分析を確認しておく。
- 委員：ノーマイカーデーの CO₂ 排出量はどのように積算しているのか。事業所にはどのように確認しているのか。
- 事務局：車通勤の登録台数とノーマイカーデーの時の駐車台数を確認し、その台数の差分や、関西電力の排出係数等を基に積算している。なお、台数は事業所ではなく、市役所の職員の台数である。
- 委員：摂津市で新しく取り組んだことや、取り組みたいことはあるのか。
- 事務局：昨年度より、市民環境フェスティバルで新たに電気自動車等を展示した。また、現在は紙媒体で提出してもらっているエネルギー日記について、スマートフォンで利用できるアプリ化を検討できればと考えている。

- 委員：エネルギー日記の参加件数について、今年度の目標値である 880 件は達成できるのか。例年より減少傾向だが周知が足りていないのではないかと。猛暑の影響でグリーンカーテンのゴーヤは不作続きである。ゴーヤの苗を配布するだけでなく、良い育て方等を周知したり、ゴーヤの代替となる植物を検討したりしてほしい。
- 事務局：エネルギー日記については、参加者の高齢化が進んでいるため、若者にも取り組みやすいようにアプリ化を考えている。今後も周知するための様々なツールを検討していきたい。
- グリーンカーテンについて、ゴーヤの代替となる植物はすぐに見つからないが、今後も探していきたい。庁舎のゴーヤも育ちにくい状況である。猛暑に負けないような良い育て方を研究して周知していきたい。
- 委員：エネルギー日記のリーダーは何人いるのか。他のリーダーと会うことが無いため、交流会等を検討してほしい。意見交換を行えば、モチベーションのアップにつながるし、取り組み方法等を検討できる。
- 事務局：委託事業のため、正確な人数は把握していない。
- 委員：昔は庁舎のゴーヤは市民も一緒に植えていた。職員任せではなく、市民参加の形に戻すのはどうか。それによって市民への啓発にもつながる。
- 委員：鳥飼ナスの流通ルートについて、傷物で市場に売れないものを市内飲食店に販売している。鳥飼高等支援学校でも鳥飼ナスの栽培をしており、百貨店等に卸している。このように、地産地消で回すことで廃棄物や自動車の CO₂ 排出量が減らせる。
- また、中小零細企業が取り組みやすい CO₂ 排出削減に関する政策が少ないことが課題である。
- 委員：大阪府では、大阪産（もん）の野菜に対し、地産地消の観点から CO₂ 削減量のラベルを張れる仕組みを取っている。
- 他にも、SBT 認証を取得されている事業所を応援する目的で、プロポーザル等の一般的な入札方法とは違う競争方式の中で、事業所に加点できるような方法を検討している。行政の仕組みづくりは大変だが、予算はかからないため、参考にしてはどうか。
- 委員：夜間に気温が下がらないことが農作物の不作につながっているため、根本的な対応を変える必要があるのかもしれない。
- 委員：健康に関する対策として、熱中症の搬送者数を指標にしてもよい。クーリングシェルターを増やす意向はあるか。
- 事務局：保健福祉課が、熱中症対策として、コミュニティプラザや公民館内ロビーを涼む場所として開放している。今後も保健部局との連携を取り、必要な情報はホームページ等で周知していきたい。

4. 報告事項

令和7年度の主な取組について

○事務局より【資料2】に基づき説明。

委員：太陽光発電システム等設置補助金について、申請者が環境政策課の施策に協力する等の条件は付けているのか。

事務局：条件は設定していない。

委員：補助金の交付は、市民や事業者に市の施策に協力してもらうのによい接点の1つだと考えるので有効に使うと良い。例えば、エネルギー日記の参加に協力する等に関連付けする方法もある。

委員：補助金を交付された後の数年間において、エネルギー使用量等を報告してもらうのもいい。それによる削減量やコストの検証ができるため、次の市民への普及啓発につながる。

事務局：補助金制度の施行前にはそういった検討も行ったが、それによる申請者の減少も考えられたため、条件に含めなかった。

委員：市民への啓発や交流について、今までと同じ内容では今後広がっていかない。エネルギー日記の件数減少についても同様のことが言える。理由の一部として、参加者のモチベーションが続かないことが実態としてある。自分達のやっていることが、どれくらい効果があるのか評価してほしいという意見もあり、それがモチベーションにもつなっている。アプリ化については、市独自だけではなく、様々な方法が展開されているので、引き続き新たな施策の導入を検討してほしい。

5. 計画の中間見直しについて

○事務局より【資料3】に基づき説明。

委員：大阪府の計画について、国の目標を上回る設定で現在見直し作業を行っており、年明けにパブリックコメントを出して、年度内の策定を目指している。摂津市の中間見直しについては、大阪府の施策・事業に乗れるところは連携し、市の地域資源も使いながら進めていただきたい。国の概算要求からは、公共施設へのペロブスカイトの導入に対し、かなり手厚い補助率を設ける見込みと聞いているため、前向きに検討いただきたい。

事務局：大阪府の削減率の積み上げの積算根拠値をご教示いただきたい。

委員：国は、対策ごとの数字の積み上げで削減量を積算している。その中から大阪府へ按分されるものと、大阪府独自の対策で積み上げられるものを合算して積算している。

6. その他

事務局：先程、ご説明したとおり来年度は中間見直しに向けて、3 回程度の開催を予定している。

〔了〕